

#### ○4番（山口裕子君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。本日、2日目、3番目の山口裕子でございます。登壇の許可を得ましたので、ただいまより一般質問をさせていただきます。

きょうは、山口議員ということで3人が続いておりますが、3番目、しっかりと頑張っていきたいと思います。あと1人、山口議員は月曜日ですね。並びませんでした。

それでは、今回、環境問題についてということで第1番目、自然エネルギーの推進ということについて質問させていただきます。

質問の中でも、今回の東北地方の被災された方、また亡くなられた方々に対して、本当に御冥福をお祈りするとともに、これから自分も議員として、いかにこういうことを、復旧・復興という形、あと思い、心を寄せて、力を合わせていくということにしっかりとまた議員活動を引き締めた気持ちで行って、活動していかなければならないと思っているところでございます。

それでは、これまで何回となく一般質問において、ごみ問題、地球温暖化、森林破壊、食料問題、エネルギー問題、オゾン層破壊による悪性紫外線の問題など取り上げさせていただきました。しかし、環境活動を始めて20年になりますが、なかなか社会はよい方向にはならず、日本は、自分さえよかったら、今さえよかったらの社会になっていたような気がします。これでは次世代を担う子どもたちにたくさんのツケを残し、豊かな社会を残してあげることができないような気がします。今、ここで東北の震災、福島原発事故を機に、日本が転換できる時ではないかというふうに思います。

市長、今大切なことは何でしょう。これを機に、日本は大量生産、大量消費、大量廃棄、余りにもとどまることを知らず経済発展に走ってきました。未来の子どもたちが安心して幸せに暮らせる社会をと活動してきましたが、それでは、私たちにできるのはどういうことで心を寄せることができるのでしょうか。今回、市長、同僚仲間の議員8人の方々が支援に行っていました。市長も支援に行かれて、いろいろな体験を通して気づかれたことだと思います。これからの武雄市政にどのように生かしていられるのかをお聞かせください。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

答弁いたします。

やっぱり現場ですよ。見てきたこと、聞いてきたこと、そして我々は、朝長議員も含めて一緒にボランティア活動をしてきたわけですね。臭かったですよね。——目そらしんさったですけど。

とにかくですね、これはテレビとか新聞じゃ伝わらんことなんですね。においてなれるって言うじゃないですか。うそです。なれません。そういうことで、もう1つあるのは、そ

ういったことをやっぱりきちんと伝えるっていうことがすごく大事。

それともう1つ、もっと大事なことは、それを実際の市政運営に生かすのは、さらに大事だと思いましたね。特に、これは再三答弁していますけれども、行政が大混乱しています。そうならないために、じゃあ、平時のときにどうすればいいかということも含めて、今回は議員団に連れていってもらって、本当に僕はよかったというふうに思っています。これを市政にきちんと生かすことが、私に与えられた責務だと認識をしております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

いろんな機会で、牟田議長とか、うちの議員さん方々、また市長、本当にその姿、すごさを、やはり実際体験するとは違うということでもいろいろ聞かせていただいております。

そして、ぜひとも、今言われたように、市政に反映していただきたいなというふうに私は思います。やはり私は、こういう経験をもとに、きちんとビジョンを国が、そして武雄市が示すべきじゃないかなというふうに思っております。そのビジョンを出されたところで、国民は何をすべきか、市民は何をすべきかという形で行動に移せるような計画が必要だと思っております。

安心できる社会を目指す、危険なエネルギーを自然エネルギーに変えていく、食料・エネルギーの安定供給、需給を目指す、老後や福祉について不安をなくし、生きがい、やりがいのある社会を構築していく、こういった未来が描かれるようなビジョンを示して、それでは国民はそれに対してどう動いていけばいいのか、市民はどうやって動いていけばいいのかというふうな形が出てくると思います。ありがたいことに、本当に武雄市は市長が率先しているような行動を起こしていただいております。今回のウルトラクールビズということも1つだと思いますが、市役所からいろんな形で発信をしてもらって、大変ありがたいことです。

この行動を起こすにも、やはり節電とか省エネとか、そういう形で市長は動いていただいていると思うんですが、やはり市民にわかりやすいように、これが実行できるように、項目リストとかを上げて、市民に訴えかけてほしいなというふうに思います。みんなが一緒に一致団結して動けるような広報などをしていただきたいなというふうに思いますが、見解をお聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

全く同感ですね。よく私に対して、思いつきだとか、いろいろ言われますけど、違うんですよ。僕ほど慎重な人はいないんですよ。ウルトラクールビズも、実際僕は反対したんですね。やっぱり、見てくれって大事じゃないですか。ただ、職員の皆さんたちから、28度って

冷房設定するとね、末藤議員、よくおわかりだと思うんですけど、実際、下で仕事しているときは30度超すんですよ。特に南側になると、28度って設定しても32度なんですね。こんなところでまともな仕事なんかできないですよ。

ですので、やっぱり私とすれば、気候に応じて、そして、しかも、市民に不快感を与えない、むしろ涼しげな格好をしてするのがね、職員から説得されて、僕もそうかなって、僕は君子豹変すですので、思いましたね。それで、ウルトラクールビズということで出したら、まさかNHKの全国ニュースに出ると思わなかったですね。ちょうど四国に出張していたときに、NHKで犬塚君の顔を見ましたもんね。こんにちわって。それと、さらに驚いたのは、その後、実はアメリカの私の友人から、国務省に勤める友人から「ハロー、ケイスケ」って電話がかかってきて、何やろうかって思ったら、武雄市役所のアメリカのニュースで出とったぞで、アメリカのABCニュースで流れているんですよ。「ヘッドラインニュース」で。福島原発の節電ということで、こんなに頑張っている市役所がいるというふうに出たわけですね。その後に菅さんの不信任が出てきたて。（笑い声）そうなんですよ。

だから、本当にね、言われたのは、半ズボン1つでこれだけの宣伝ができるのは武雄市役所だけだと思います。それを議会の多くの皆さんたちが後押しをしてくださっているということに、本当に私は感謝を申し上げたいと思いますし、話が迂遠になりましたけれども、やっぱりこういうことをしているというのは、リストをちゃんと上げるというのは大事。だから、緑のカーテンもそうですし、ウルトラクールビズもそうです。きのう出して、今大反響になっていますけど、何かテレビ取材もいっぱい来るそうですが、残業禁止令。これもやります。

それで、実際、単に思いつきではなくて、これだけでどれだけ節電効果があったというのをきちんと出す。去年と比べてどう違うんだというのをきちんと出すというのが、やっぱり行政に与えられた役割だと思っておりますので、それはしっかり出していききたいというふうに思っております。それをすることによって、市民の皆さんの、市だけでやってもしょうがないんですよ。だから、節電をこういうふうにしていこうと、ああ、こういうスタイルもあるんだということをぜひ出していければありがたいというふうに思っておりますので、もう徹底的にやります。もう私ね、決めたら徹底的にやるんですね。やって、それを見て、それで評価をしていただいて、来年やるかやらないかというのは市民的な議論をぜひ巻き起こしていきたいなと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。徹底的にやるということですから、本当にしっかり市長について行って行動を起こしていきたいと思っております。

また、政策によってまちは変わるということを昨年、同僚議員と2人で、ドイツの環境先進都市フライブルク市に視察に行ってきました。そこは、世界じゅうから環境先進都市ということで視察があるんですが、まちに入った途端に、大変まちが美しく、花と緑がいっぱいです。また、人が中心で、安心したまちづくりになっております。それは路面電車を活用して、人とか自転車を優先したまちづくりが行われております。あと、店の営業が8時から20時までというふうに決まっています。また、ジュースの自動販売機は禁止です。それに、プラスチック、塩化ビニールなどの製造規制、または禁止です。このように政策的に打ち出されると、こんなふうなまちづくりが、市民が行動できるんだなというふうに、とてもうらやましいというか、こういう形が夢の世界のような気がいたしました。でも、私たち武雄市も、こういうところをまねして、私たちに生かせるところが十分あると思います。

樋渡市政にかわって、私は思うのですが、とてもきれいになったと思います。それは、特に市役所の前の中央公園もそうですし、やはり庁舎が古くて暗いイメージがあるんですが、あそこの公園が明るく広がりを持って、きれいな公園になったということが、とてもいい感じになりました。やはり、私たちにできることは、そういう政策によって打ち出されると、市民も行動がしやすいように思います。

ドイツは、私もこの議会でも言わせていただいたんですが、使い捨て食器の使用禁止という形で1991年に出されております。やはり、市の催し物施設で食器と食器洗いの設備がないところには、それらの補充・設置を開始して、使い捨ての食器の使用を禁止するような制度も持たれております。

こういう制度のおかげでまちがきれいになる、地球温暖化防止になるということを視察してきましたので、ぜひとも市長に、こういういいところをまねて、さらに武雄市を美しいまちにしてほしいなというふうに思っておるんですが、1つ気になるのがありました。山内支所の近くなんですが、そこは行政施設でもあるので、やはり目立ったと思うんですが、これだけ節電とか自動販売機をなくせば省電力になるとか、いろんな形が言われているときに、ちょっと市民の方から、新規に自動販売機が設置されているということを私に言ってこられました。できれば、この時期だから、そんなことはないと思うけど、自動販売機を今さらつけるんですか、周りにはたくさん自動販売機があるのにというような意見もありましたので、今後、やはりそういうことがあれば、自然エネルギーにするには、やっぱりそういうところの解決をしないと、自然エネルギーの推進にはなっていないんじゃないかなというふうに思いますが、御見解をお聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

牟田山内支所長

○牟田山内支所長〔登壇〕

支所の前に自動販売機の設置をいたしております。これにつきましては、被災前に、3月

の初めでございますけれども、身障者の会から申し出がっております。この中で、協会といたしましては、協会の運営も非常に厳しいと、また、少しでも自販機を設置することで収入になればということで申し出がっております。

協会からの要望でもありますし、当時、今ほど節電ということで問題視もされておりましたので、申請を受理したというところでございます。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

自動販売機というのは、障がいをお持ちの方の団体の貴重な収益の場だということは、ぜひ理解をしてほしいんですけど、やっぱり節電というのは大事だと思うんですよ。それで、今、我々がやっているのは、夜間は全部消しています。市が場所等で関与している自動販売機というのは、夜間の消費電力、すごいんですね。それも消していますので、そういったことで、やっぱり政策目的とちょっと合わない部分はありますが、それは別の政策で、この場合は電気を消すということでやっていきたい。

そして、これは市民の皆さんたち、あるいは業者の皆さんたちにぜひやってほしいのは、ちょうど5年ほど前に、私はCO<sub>2</sub>の削減で自動販売機全部消してくださいって言ったんですよ。そしたら、あれみんな賛成すると思ったら、刺されそうになるぐらい反対されましたよ。なぜかっていうと、商売邪魔するのとかかっていろいろ言われてですね。でも、今ちょうど、もう皆さんお感じだと思うんですけど——それと、防犯にならないって言われたんですよ。どこの世界で自動販売機に防犯任せますか。

だから、私は今思うのは、やっぱり無駄な電気は極力使わない、つけないという意味からすると、ぜひ夜間の自動販売機はもう消してください。消して回りたいぐらいですよ。だから、そういうふうにする。

それと、コンビニですよ。あんなに24時間こうこうとつけるって。東京のコンビニなんかは、もう結構、夜間というのは3分の1ぐらいになっているんですね。電気の使用量も含めて、明るさも。

ですので、コンビニの経営者の方々とか見られていると思うんですけど、とにかく市民総出でというか、個人個人ではたかが知れているんですよ。ですので、みんなで節電をすることをお願いをぜひ、この議会、視聴率はすごい高いらしいですので、お願いをしたいと、このように思っております。

**○議長（牟田勝浩君）**

4番山口裕子議員

**○4番（山口裕子君）〔登壇〕**

自動販売機のことがあるような形になっているというのは、私も初めて知ったんですね。

内容がどうだこうだということはよかったですけど、時期的なこともあったし、あれだけ東北の方が苦しんで、悲しんで、いろんな悲惨な被災に遭われているときに、少しでも心を合わせて、私たちにできることをと言っているときに、やはり余りにも目立ち過ぎたと思うんです、それが。それが行政の施設の中だったからですね。でも、ありがたいことに、皆さんがそれぐらいに敏感になって、やはり何かしらしめないといけないなというようになっていくということは、本当にありがたいことだと思います。

障がい者団体の方というのは、私も障がいの会の代表もしていますので、よくわかります。本当に個人とか厳しい中、いろんな形で上げていかないといけないというのがありますけど、やはり環境優先で、ほかの部分から利益が上がってくるような方策もとらないといけないと思うし、一番大事なものは何かというところで今、選択をしていかないといけないと思います。

市長も、本当、この思いで前回、電気を消すこととか、いろんなことを行動を起こしてもらったときに、やっぱりそういう意見とか、いろんな反対意見というのが厳しいところがあるというのは、本当に大変御苦労なさっていることだなというふうに、ありがたく思います。

しかし、今、やはり自然エネルギー、やっぱり再生可能なエネルギーで、まず私たちができるような行動をとらないと、幾ら頑張ろう頑張ろう東北と言って、皆さん何をこれ以上頑張ろうって東北はっていう意見はたくさんあっていますよね。ということは、私たちが何を頑張っているのかというふうになると、やっぱり省エネとか、そういう節電とか、そういうところから東北の方たちに思いを寄せるというか、そういうことじゃないかなというふうに私は思ったので、今回上げさせていただきました。

また、できることといえば、今、家電製品などはかなり省エネになっているんですよね。だから、それだけでも新しい省エネの商品を使うことによって、もうそれだけで節電になるという形ですね。

あと、情報としては、電力が足らなくなるとか、夏場のピーク時はとか言われるけど、いろんな情報が出ていて、今、火力とか水力発電を稼働させれば原発に頼らなくても困らないというふうに言われているということですね。やっぱり原発は細かな調整とかが難しく危険だから、ふだんはフル稼働をさせていて、それに対して火力とか水力を補うような形になっているので、やはりそういう稼働の仕方とかを見直していただければ、本当に自然エネルギーに変換していけるんじゃないかなというふうに思っております。

あと、武雄市でも、しっかりと推進していただいている太陽光発電、また先ほど言われたコンビニの時間の制限、あとパチンコ屋さんの電気とか、ジュース自動販売機などの制限ですね、それにおいて会社とか家庭での節電を積み重ねていけば、本当にこれは自然エネルギーでの転換が可能じゃないかなというふうに私は思うんですが、武雄単独でやられることは市長もしっかりやっておられるし、こういう動きに対しての見解をもう一度お聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、全体の我が国のエネルギーの割合を見ると、3割が大体原子力ですよね。6割が大体火力なんです。1割が再生可能エネルギーなんです。水力とか風力とか太陽光って。太陽光は、大体0.004%なんです。多く見積もっても。それぐらいしかない。そのときに我々が考えなきゃいけないのは、火力もすごいCO<sub>2</sub>出していますもんね。石油に依存するというのがある。原子力に依存するというのは、この時代、もう不可能だといったときに、いかに多様性を確保するか。それで、地域地域で自分のところは、原発は厳しいから、例えば、太陽光を選びますとか、そういうふうにするのが私は政治の役割だと思っているんですね。その中で、我々が進めていこうと思ったのは、そのロールモデルをぜひつくりたいということの思うわけですよ。武雄ぐらいの小さな田舎の市でできることだったら、全国にできるっていうようなモデルをつくるのが我々の役割だと思っていて、孫さんの電田構想、それが広がると電園風景になりますよ。電気の園。東川登を中心として。そういうふうに太陽光というか、耕作放棄地のものをしていくということ。

それと、もう1つ大事なものは、今、テレビでやっとなんてやってきましたし、うちの石橋部長がぜひやりたいと言ったのは地熱ですね。地熱を利用した電力というのをぜひやっていきたい。これはまだ、熊本の一部とかでしかやっていないんですね。御存じですかね、地表ありますよね。そこで5メートル下に管を通すと、そこに送風すると、地下の5メートル下のところというのは14度から16度なんです。たった5メートルで。それを空気をぐるぐるぐるぐる回すと、1年かけて14度から16度の風が上に上がってくるわけですね。ですので、夏は冷房、冬は暖房になるんですね。この地熱というのを一番、先進国でやってこなかったのは日本なんです。実際、ヨーロッパでは当たり前に行っているわけですよ。

ですので、これの呼び水に、ぜひ、今度、地熱発電というか、それは発電するわけじゃないんですが、地熱で風力を送って、そういうシステムに、やっぱり個人のお宅だと200万円から300万円かかるらしいんですよ。マックスで300万円かかる。事業者も、もっとそれ以上にかかるんですけど、事業者と個人宅と含めてモデルケースをつくらうと。モデルケースになっていただくところは、政策誘導として補助金を出そうと思っています。全額は出しませんが、その何割か持つというふうにして、太陽光の発電が広まったのは、1つは政策誘導なんです。一気に国、県、市があわせてやったから、太陽光というのは、特に佐賀県が今、日本一になっていますけど、それと含めて、代替エネルギーの可能性を追求するためにも、先ほど申した地熱活用ですね、その補助金のスキームをつくりたいと思っていて、早ければ、もう来年の1月に施行するというので、ぜひ、これは議会にもまた相談しますが、うんとおっしゃっていただければありがたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

いつも行動力と前向きな考え方に私は何か魅力を感じるんですが、やはり武雄市から今、本当に武雄市からこういう発信がされて、武雄市以外に住んでいる方たちが、武雄市は本当にすごいねって、動きが早いねっていう形で、本当にいつも褒めていただくので、これがいい形に、日本じゅうの方に刺激になっていると私は思うんですね。だから、ぜひとも、このロールモデルというか、地熱によるエネルギーですね、ぜひやっていただきたいと思ひますし、ますます、またきのうも同僚議員が言っておりましたが、太陽光発電ですね、そういう推進もやっていただきたいと思ひます。

あと、ピーク時の電力というところでよく話になるんですが、これも法律と政策で下げることが可能だということで、ある資料が載っていたんですが、やはりピーク時の電力は法律、政策で下げることが可能で、夏の一番暑い時間帯にはクーラーなどがフル稼働し、電力消費が多くなります。アメリカのカリフォルニア州では、ピーク時の電力を2割下げた家庭には費用還元するなどを実施しています。フランスでは、ピーク時の電気代だけを高額にして、ほかの時間帯は安価にするという契約を設け、ピークを下げるようにしています。やはり、日本に今足りないのは電力ではなく、いろいろな工夫ではないでしょうかという記事が載っておりました。

このピーク時というのも、1年間、365日、24時間を計算しますと、8,760時間、ピークは年間のたった10時間ですね。10時間だけなんですけど、その10時間に合わせて原子力発電とかを合わせていますので、年間の稼働としては60%ぐらいしか本当は動かさなくていいわけですよ。そのピーク時というのも、産業界が90%を占めているわけですね。

だから、こういうところの法律と政策によって解決するんじゃないかなというふうに私は思っていますので、ぜひともいろんな政策によって自然エネルギーの推進ではないですが、再生エネルギーという形でできるように、武雄市からやはり市長が発信していただくということは、とてもありがたいと思ひますが、見解をお聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そう思いますよね。武雄だけ変わっても、日本は変わらないんですよ。人口5万人だし。だけど、武雄が事を起こすことによって、風を起こすことによって、武雄ができるんだったら自分たちもって。武雄ではここまでできるけど、自分たちはこの方法があるよねって。だから、我々は、もう本当、ロールモデルを起こすことが今求められていると思ひますし、こ

れだけやっぱり注目されていますもんね。議会の皆さんたちのおかげですよ、本当に。

ですので、やっぱり我々は、決定権はありません、私には。決定権ないんですよ。市民の皆さん、よくね、あれなんですね、誤解されていますけど、決定権があるのは議会なんですね。議決権という意味で。私は、議会のある意味、しもべとして、執行権しかないんですよ。ですので、議会の果たす役割というのは、これはアメリカの上院、下院は物すごく認識されていますけど、議会の役割というのは物すごく大きくて、だから、議決に反することをする人に対しては、僕は物すごく許せないんですね。それは置いておいて。

だから、そういうふうに、やっぱり議会の議決というのはすごく大事で、それでなおかつ、そういうふうに事が進んで、今高い評価をいただいています。私のところにも、直接、間接来ますけど。ですので、今我々がやるべきこと、やらない理由よりやる理由をすると、そして、みんな、それを様子を見ているんですよ。そういう人たちに、やっぱり勇気づけるという意味でも、我々の一自治体ではありますけれども、役割というのはすごく大きいというふうに思っています。

ただ、これは思いつきでやってはだめです。ですので、必ず検証が必要です。その上で、やったことに対して、やっぱり評価をきちんとする。この役割というのは、やっぱり議会にあるんですよ。ですので、そういう意味での議会の役割をさらに発揮してほしいと。

ただ、余りでためなことは書かないでほしいって思いますね。正確にちゃんと書くということをぜひ——いや、宮本さんに言っているわけじゃないですよ。期待をしたいと、このように思っております。

#### ○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

#### ○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ぜひとも慎重に、それは慎重にやっていかなければいけないと思います。

しかし、本当にここまで来て、私は子どもたちに安全・安心で、本当に夢の描けるような社会を次世代に受け渡したいという気持ちで議員活動もさせていただいておりますので、今回の原発事故は、私たちが本当に真剣に考えていかなければならない、だれでもが真剣に考えていると思うんですが、いろいろな情報によって、浜岡原発は一応中止という形が出ました。しかし、佐賀県は玄海町の玄海原子力発電を抱えています。日本は、偏西風が起こるといふか、風が吹きますよね。今回、ラッキーとは、そういう言葉が適切ではないですが、福島原発は海水が汚染されたと思いますが、太平洋のほうに多く風が吹いておりますので、少しは和らいだと思うんですが、やはり玄海原子力を考えると、主要な部分が偏西風に風が吹くと、一番被災、放射能を浴びるような形になるということと、今、マグニチュード5以上の地震が、本当に異常気象なのか、そういう形でふえています。

1973年以降、マグニチュード5以上の地震は、イギリスが8回、ドイツが17回、アメリカ

が385回、日本が3,542回ですね。やっぱりそういうことを考えると、安全性から、これは早急に考えていかなければならないことだというふうにわかります。

また、世界は日本の福島原発事故を学んで、スイスは2034年まで、ドイツは2022年まで、オーストラリアは廃止、イタリアは国民投票によって廃止、そういう動きが出ておりますので、ぜひとも私たちが子どもたちに安心・安全な命最優先の社会をと考えるときに、今何を選択しないといけないかということは明らかにしていることだと思いますので、市長は本当に率先して動いておられますので、私たちも一致団結、こういう動きをとっていかないといけないんじゃないかなというふうに思っております。

もう済んだことは余り言いたくありませんが、私は、プルサーマルの件で平成18年の9月と平成21年の9月の2回質問させていただいております。平成21年の9月の議事録を見ますと、本当に想定外のときはどうするんですかとか、いろんな形で質問しています。大庭部長が、緊急のときには、佐賀県は玄海町と唐津市の1市1町でございます。そのEPZの策定されているところがですね。武雄市は直線距離でいきますと約30キロメートルということで、この策定については義務づけられておりませんが、万が一の緊急時には国・県の指示に従いながら対応を図っていこうと思っておりますというふうに答弁があって、私は、国・県の指示を受けてというところが一番問題だと思うんですがという形で意見をしています。

こういうことは起こらないとわからないことだから、こうだった、ああだったということは余り言いたくないですが、やはりこのときの市長の答弁を見て、今、市長が対応してくれている答弁としたら、全く違う、本当に前向きにありがたく、今真剣に取り組んでいただいているなということを感じることができて、私は本当にうれしいです。

だから、ぜひとも、武雄市が一致団結して前向きな政策をとっていくようにしなければならないというふうに思っております。

やはり、こういう事故をですね、これはやっぱり無知、無関心というか、やっぱり知ることによって、こういう事故が防げるんじゃないかなというふうに私は思います。やはり、このような多くの犠牲になられて、傷ついてから、私たちが気づいても、本当遅いんですが、しかし、やはりこれを無駄にできない、こういう事故を無駄にすることがもっと残念なことになるので、ぜひともこれを機会に、3月11日を境に日本は変わったと言えるような環境都市になっていければいいなというふうに私は思います。東北地方の方の悲しみとか苦しみを無駄にしないように、私たちは行動していかなければならないんじゃないかというふうに思います。

きのう、同僚議員からも出ていましたが、武雄市の1つの行動として、子どもたちの受け入れも言っていただきました。夏休みの受け入れですね。あとまた、1回、議員の8人の方が支援に行ってくださいましたが、また、これも継続して支援が必要じゃないかという声も出ていますので、こういうところでもできることに行動を移して行ってほしいなというふうに

思います。

また、知るということが大事というところから、武雄市には放射能の計測器などが備えてあるのかをお聞きしたいと思います、お願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、放射線を測定する機器については、武雄市では1台もありません。

そして、その前にちょっと私が答弁すればよかったんですが、子どもたち、やっぱりすごい大事なんですね。それで、さきに山口昌宏議員が、仙台の若林区で泥まみれになって作業されていて、そのことを東川登小学校の生徒さんですかね、全員の生徒さんに話をされたら、1年生から6年生までみんな、ちゃんと話を聞いたと。その中で一番、これはいろんな人から私は聞いたんですけども、子どもたちが一番感動した部分というのが、山口議員がおっしゃった、要するに、今、例えば、家族がいてとか、学校で勉強ができてとか、友達と遊んでという、本当に普通の日常の生活というのは本当にありがたいんだよということで、一番感銘を受けたというのをあちこちから聞いたんですね。山口昌宏さんも、たまにはいい仕事するなと思って、感動したんですが。

その中で、やっぱり子どもたちというのに今回の震災のことをしっかり、やっぱり自分たち日本国に起きたことです、同時代で。そのために、1つ、今教育委員会と協議をしながら考えているのは修学旅行です。今、寺社仏閣に中学生が行ってもわからんですよ。それは大人になってから行っていい。そのかわり、震災で、例えば、若林区、私は若林区の例ばかり出しますけれども、あれは伊達政宗が防風のために何万本と植えていたのがわずか数十本しかないんですね。そういうのを見る、あるいはそこで暮らしている方がどういう思いでしているかということ、それは修学旅行そのものでもんね。学をおさめるという意味でも。ですので、全部それにとということじゃなくて、例えば、仙台でも、例えば、復興の糧として、松島ですよ、松島はすごく頑張っているんですよ。そういったのも含めて、修学旅行のあり方も全面的に変えたいと思っています。幸いにして、浦郷教育長は非常に理解の深い方ありますので、そういうふうにするというのがある。あれはやっぱり子どもたちに見せないと。ですので、そういうふうにしていきたいと、このように思っております。

いずれにしても、子どもたち実体験を聞いてもらうということと、実際の被災地へ行って、やっぱりそれを現場で、現地で、我々が思う以上のことを体感してほしいと、切に願っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

もちろん、子どもたちに、忘れないようにというか、体験をしていただくというのは大切だと思いますが、やはりそういう思いをさせないように、大人たちの選択をきっちりと間違わないようにしなければいけないということを今回のことで私は痛感しております。

18歳以下の子どもたちで両親を亡くした子が140人ちょっとだったと思います、子どもたちがいると聞きました。本当に、二度とこのような悲惨な事故がないように、私たちは、大人が選択をしていかなければならないというふうに思います。もし、この3月11日を境に、またこのようなことを繰り返すということになれば、本当に何だったのかということか、この選択が間違っていただけでは済まないんじゃないかというふうに私は思います。

あと、地球サミットという会で、数年前でしたが、モーリス・ストロング事務局長という方がメッセージを出されているんですが、「我々にはまだチャンスがある。しかし、これまでと同じ過ちを繰り返す時間はない」というメッセージを出されているんですが、本当に今回の福島事故を思うと、二度と間違わないように選択をしなければいけないんじゃないかなというふうに思わせていただきました。

これから、しっかりとした行動を私たち一人一人が、被災に遭われた方たちに思いを寄せて行動していくことが元気な日本、そして元気に東北が復興・復旧になっていくことの方ではないかなというふうに思っておりますが、市長、また改めて、そういう思いの見解をお聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

山口裕子議員の思い、そして、これは同じ日本国民としての被災地の皆さんたちの思いを十分受けとめて、我々でできる最大限のことはやっていきたいと、このように思っていますし、ただ、やっぱり気をつけなきゃいけないのは、東北の皆さんと話していると、余り元気失わないでくださいって、やっぱり言われるわけですね。やっぱり言われるのは、全部日本が暗く沈むと、自分たちがさらに沈んでしまう。だから、もうそれはそれとして、やっぱりお金を使ってほしいし、山口良広議員からも立派な話がありましたよ、納税するって。そんなに稼いでおられるのかどうかわかりませんが、そういうふうに、ちゃんと、やっぱり納税をすとか、そういう健全な、前向きな意識というのはすごく大事だと思いますよね。

だから、前向きにやっていければいいなというふうに、そのメッセージを先頭に立って、市民の皆さんとともに、議会の皆さんとともに発していきたいなと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

#### ○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

そうですね。やはり毎日毎日、福島事故、そしていろんな被災に遭われた方のニュースとかを見て、これが3月議会に起こって初めての6月議会一般質問ですが、それまでに私も本当に、何か胸が張り裂けるような思いとか、母親としてとか、子どもたちに、じゃあ、どういう形で社会を残してあげられるんだろうかという思いがたくさん募って、気持ちがいっぱいで、今何か、もう少しちょっと落ちついて話しましょうという感じになっているんですが、本当に、やはり市長も動いていただいているし、元気はもちろんそうです。そんなに悲しんだりしていてもだめですし、女性が元気を出して前向きに明るく、本当に進まなければいけないなというふうに、それが一番大事だというふうに思っておりますが、政策の方向性というのも一番大事だと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、2番目に行きます。

教育環境の中の分校についてです。

これは、平成22年の9月議会で質問させていただいております。学校施設の活用という形で質問させていただいて、今回、私のほうにいろんな意見が届けられているんですが、立野川内分校がことし4月の入学者がゼロでした。それで、やはり入学式に参列している方とか、いろんな地域の方とかが私のほうに尋ねられるんですね。いつになったら本校と一緒にになるとか、分校だけでかわいそうにとか、3人のお子さんが運動会とかいろんな活動の中、タクシーで行ったり来たりされているのを見て、あがんやったら、本校と一緒にがよかとかやなかろうとか、本当に何で一緒にならんとやろうとか、いろんな意見を私のほうに寄せられるんですが、これまた、前回質問しましたけど、私としても何かはっきりとした意見はなくて、聞くことができなくて、保護者の方とか、地元の方とか、意見を聞きつつ、今後考えていきたいという答弁になっておりましたので、今回、入学者がゼロというところで、こういう話し合いが持たれたのか、お聞きしたいと思います。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

すみません。教育委員会の答弁の前に、答弁漏れがありましたので、ちょっと補足をさせていただきます。

放射線計の話が出ましたけれども、私たちとしては、市民の放射線に対する不安感を払拭するためにも、実際どれだけ放射能が飛び交っているかということについて、やっぱり知る必要がある。それを知らしめる必要があると思っておりますので、携帯用の放射線測定機器のサーベイメーターを配備したいと思います。

その上で、測定器もいろいろあります。表面汚染を測定するもの、そして、大気中の線量

を測定するものがありますけれども、現段階で事故等が起きておりませんので、大気中の線量を測定するものがふさわしいと思っています。これ、結構額が張るんですね。ですので、これもよく議会と調整をいたしますし、しかも、今、申しわけございません。サーベイメーターの、（パンフレットを示す）これ、あるんですが、こういういろんな機材があるんですけども、実際、3月11日の大震災以降、かなり品薄になっているんですね。ですので、最速では、購入については頑張りますので、それが敷設できた段階で、また、市民の皆さんたちにも見えるところにきちんと置くと。場所等については、まず議会の皆さんとよく相談をさせていただきながら、市民の皆さんたちにも広く見聞きしてもらおうようにしていきたいと、このように思っております。

**○議長（牟田勝浩君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

お話にありましたように、今年度、立野川内分校入学者は3名でございました。したがって、ことし、来年と、ことしは1年生だけ、来年度は2年生だけというような形で単学級ということでございます。

ただ、その後を見ますと、9名、3名、7名、4名、8名ということになりますので、それぞれ1年の学級、2年の学級ができるという形でございます。

**○議長（牟田勝浩君）**

4番山口裕子議員

**○4番（山口裕子君）〔登壇〕**

すみません。ことしが入学ゼロじゃなくて、1年生が3人だけということですね。——はい、失礼いたしました。

そういう答弁でしたが、やっぱり地域の方が、この9名とか3名とか7名ってなるのは、私もいただいているとよくわかるんですが、これは何名まで、今もう分校の時代じゃなかりょうもんという意見を届けられるのでですね。これが何名になったら考えると、そういうものになっているかも、町民の方とか市民の方が聞きたがられるわけなんですね。この見通しが、今から子どもがどんどんふえて、もう考えんていいということならばですけど、平成29年度の6年先を見ても、犬走が2名、1、2年生合わせてですよ。船ノ原が4名、立野川内が8名というふうになっていて、こういうので市民の方は、もっと有効活用して、今の時代に合ったように使うのが一番よかつじゃなかりょうか、高齢化の人たち、お年寄りさんたちの集まったり、交流とか、いろんな提案をされますが、そういう使い道がよくなかどねという話をされるもんですから、私としては何か、答えようがなくてですね。何か決まり事でもあるんやろうかというふうに言われております。

また、今、みんなのバスも走っているし、タクシーで言わせれば、分校までタクシーで来

るんだったら、みんな本校にタクシーで送ったら、それで一緒に授業するということはできんという話もあります。これに対しても、お答えが欲しいんですけど。

あと、ほとんど親1人に1台の自家用車の時代になっていて、結構送り迎えをされている時代でもあるわけですね。だから、そういうのを含めて、市民の皆さんが私にそういう意見を届けられるんじゃないかなというふうに思いますので、そこら辺を含めて答弁がいただけたらいいんじゃないかと思うんですけど。

#### ○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

#### ○浦郷教育長〔登壇〕

幾らか長くなるかわかりませんが、まとめて話をさせていただきたいと思います。

御存じのとおり、矢筈分校の閉校があったわけでございます。もう御存じのとおり、あそこの下までバスが行き、そして矢筈分校の周辺を数百メートルのところにはほとんどの方の家があるという状況がございました。そして、1名とか2名とかの入学者という状況で、そして、距離的にも通学問題ないだろうということで、バスも来るしということで、話し合いの上に閉校の形をとったわけでございます。

山内にあります3つの分校が、本校から分校、そして一番遠い子はその距離の倍の距離に住むと、矢筈分校とはちょっと違った形で、分校がちょうど、一番遠い子の大体真ん中あたりにあると。したがって、仮に本校から歩いて帰るとすると、1年生でも4.5キロから5キロ近くを歩かないといけないという形になるわけです。

そういう意味で、分校は本来、通学の不便さから設置されていたわけで、今もその距離的な状況というのは変わりなくあると思います。ただ、今話にありましたように、家庭に車がある状況があつてみたり、あるいはところによっては通学道路が整備されたりという状況はございます。

それから、考えておきたいのは、保育園や幼稚園ではかなり集団的な生活をして入学していると。分校のときに人数少なくなるけれども、その前は確かに多い人数の中で生活している。これは、どう考えるかということではありますが、1年生、2年生の分校で過ごすときの生活というのは、ほぼ動き回るのがその分校の区域であろうと。1年生、2年生としてですね。3年生、4年生ぐらいになって広がって分校の域を出る。いろんな小さいころを思い出しますと、そういう広がり、自然な広がりが1つあるだろうというふうに思います。

それから、立野川内だけじゃなくて、複式になったり、あるいは学級に移動があつたりする場合につきましては、教育委員会としては区長さんなり代表の方と話を進めております。したがって、立野川内につきましても、そういう保護者の声もあろうかと思いますが、来年度は3名とか、そういう話も突き詰めてしまして、かえって、もっと分校の充実に尽くしてくれということで、分校の設立の、改築の経緯から話を聞いて進めてきている

ところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

私は、ちょっと余り理解ができないのかわかりませんが、これで聞いていた方が、ああ、そうですかっていう形になったのかどうかわかりませんが、やはり、もう3人とか1クラス、これは複式で見ているからとかいう話がありますが、やはり今は本当に集団の生活の必要性とか、人とのつながりとか、そういうところから考えると、一緒にしてあげたほうがいいんじゃないですかという意見を私はよく聞くわけですね。

あと、遠いところの、今距離とか言われましたけど、分校まで出てきて、分校から今タクシーとか利用されているから、みんなのバスがまだだめだったらタクシーで本校まで行くとか、本校から分校までタクシーで送らせて、それで歩いて帰るみたいな、いろんな運営の仕方があるんじゃないかという話も出ています。

あと、保護者さんとかには、やっぱりこれは何か追求できないというか、自分たちは本校に行きたいのに、自分たちが言ったばかりに、これがおしまいになってしまったとか、そういう負担を感じたりとか、やっぱりそういう意見もあるわけですよ。だから、それは保護者さんが思われるのもまちまちなので、自分たちが言ったのでこんなになったなんて、やっぱり思われたくないみたいなどころもあるので、どういうふうにして精査すればいいのかなというふうな形で、今後、こういう形でやっていきますって、6人以上だったらオーケーなんですよとか、そういう人数制限とか、そういう形で運営されていくのか。あと、ここは改築されて期間が新しく、建物もきれいなので、やっぱりそういう、何年はこういう活用を動かすことができないとかの制限があるのかとか、支払いが終わっていないから、活用が変えられないとか、そんなんだろうかという声までも出ますので、そういうのがはっきりないならないでいいんですが、やはり尋ねられたものにきっちりお答えをしたいなという気持ちもありましたので、再度質問させていただきました。教育長、どうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

人数につきましては、1年生を含む場合は8名を超える9名になると、1年生、2年生が分かれて学級ができる。計画では、今年度から6名という話も出ていたんですが、ちょっと政権のことで、その話はなくなりました。したがって、9名いけば1年、2年分かれるという形でございます。

それから、極力、地域には分校の振興会であったり、非常に応援体制がございますので、幅広く私も意見を聞こうとしております。また、矢筈のときにもお話ししましたけれども、

仮にそういう移動があったにしても、保護者の方の意見でどうこう、嫌な思いがないようにということは、当然考えていることでございます。

それから、校舎の年数等につきましては、部長のほうから施設関係についてお答えをいたします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

財産の処分制限期間という形で、公立学校施設整備事業で建設をした校舎等について、特に木造でありますけれども、これについては22年というのが制限期間の例示という形で示されております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

22年だから何ですかねという感じで聞きたいんですけど、22年は続けないといけないという答弁だったのでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

財産処分という形での22年であります。その間に、例えば、先ほど教育長のほうから話がありましたように、生徒数の減とか、そういうことがあれば、それはまた別個で、文科省なりと協議という形になるかというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

何か、はっきりですね、何か、答えがあったような、なかったような気がして、もやもやとするんですが、複式だったら9名からとか言われて、これも1、2年に分かれたら4名、4名というふうに少なくなるわけですよ。1、2年生が一緒にするということは、複式学級ということですね。複式学級というのは、1、2年生一緒に見るのが複式学級ですね。9名になったら分かれるということですね。ということは、クラスが4人とかですよ。だから、さらに少ない人数でするのははかわいそうだという世間一般的な、もう本校に行ったほうがいいんじゃないかという意見があるとしたら、そういう答弁が何か答えにはならないなというふうに私は思っております。

分校振興会というところが、そうやって分校を残したいという動きの中で、こうなっていますというんだったら、私もそのように皆さんにお伝えすればいいことなので、そういう答

弁なのかなというふうに理解しておりますが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

後のほうの御質問には、そのとおりでございます。今年度の立野川内につきましても、振興会長さんとお会いして、こういう状況になりますということで、振興会としても、さらに充実をさせてくれという話の上で進めているところでございます。

9名の複式云々につきましては、1、2年生合わせて8名を超えたら、別の1年生、2年生の学級ができるということでございます。どうしても複式というのが1つ、その分校、話題になるときによく出てまいりますので、複式の数でお答えしたところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

聞いている方に理解いただけたかどうかわかりませんが、一応、分校振興会の方は分校をということですね。複式でもやっていくという形ですね。

念のため、平成29年まで本当に、2人だったり7人だったり4人だったりって、本当に少ないから、皆さんがそれを心配して、市民の皆さんが、本校にしとけばよかつちやなかねという形を言っていたらいるんだと思います。

再度質問させていただきましたが、これで終わりたいと思います。

それでは、教育環境の中の学童についてですが、これも前回、ふえ続けている、特に朝日とか、そういうところの学童のあり方、施設、あと指導員の方の雇用体制などについて精査しないといけないんじゃないかという形で上げさせていただいておりました。

ことし、また4月から新しい入学生とかも入って、新年度を迎えているわけですが、こちら辺の整理がどのようにできたのか、お尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

議員から、せんだっての議会で御質問いただきまして、放課後児童クラブにつきまして、入所希望ですかね、利用希望の方から、それぞれ証明等をいただきました。本当に必要であるというふうに認めまして、利用の申し込みを受けまして、その登録人数ですが、今年度469名でございます。ちなみに、昨年度が481名でしたので、ほぼ同数程度の状況になっております。

それと、雇用の状況ですけれども、昨年質問の折に、今の指導員の方は任期を3年ということでやっております。現在もそのまま3年でしておりますけれども、3年たって、一応

期間満了という形でやめられた方には代替という形で1年間勤務というですかね、お休みになったときとか、長期休暇中なんかのお手伝い等もしていただきながら1年間やっていただいて、また翌年申し込みをいただいて、採用しているという状況にもございます。3年というそのものは、まだ変えておりません。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

急激にふえている地区が朝日小学校区域とかで、この間、お話ししていて、6時から7時の延長をとということだったんですが、まず整理をして、ファミリーサポートなどの活用でうまくいくんじゃないですかという形で、延長をストップしていたんですが、いろいろ調査してみると、ニーズとか家庭環境とかの違いがあって一概に、できるだけ親が見ないといけないという形を私は思っているんですが、やはりこれだけ核家族とひとり親家族、また共働き、こういう社会になっていて、いや、そうじゃないというふうに、子どもは自分で育てましよう、見ましようみたいなことを言っても、やはり子どもたちにひずみがあるんじゃないかなというふうに、私もちょっと考えましたので、やはり必要があるならば、ある程度きちんとした施設も整えないといけないし、朝日小学校のあの教室では、やはり80人登録で、そのときは50人ぐらいだったんですが、これは普通だったら待機ですね、受け入れられないですね、教室がそんな状態では。そういうふうな状態をとらないと危険であるのを詰め込んでしているので、やはり早急に場所的な施設というのを考えなければいけないんじゃないかというふうに思いますが、そこら辺の整理は今しておられるんでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

朝日の児童クラブにつきましては、今年度の利用希望が現在73名ということになっております。そういうことで、非常に狭うございます。御指摘のとおりでございます。現在、既存の学校施設の中に設置する方向で検討を進めているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

決まりが何人にこれだけの広さとか、そういうのが今までなかったからだと思うんですが、やはり親としては安心して預けられるところ、そして指導も安心してできる場所と考えると、それは早急な対応をしなければいけないんじゃないかというふうに思います。

30人も普通教室に入らないぐらいの小さいところに、今73人ということなので、やはりこ

れは急がないといけないんじゃないかというふうに思います。

また、やはり朝日の教室とか、武内とか橋みたいに登録が15人ぐらいあって10人ぐらい子どもが来ているところの指導者の方、そこは2人指導が入りますよね。そしたら、5人を1人で見えるわけですよね。60人ぐらい朝日が来ているところで3人の人が見るとなると、20人を1人で見えるような形という、そういう差が出てきますよね。

だから、やはりそういうふうにして場所をかわった指導員さんが、朝日ではとても余裕がなくて、本当、トラブルとかけんかの処理ばかりに追われていて、子どもとゆっくり過ごすことができないとか、話を聞いてあげることができない状態で申しわけないという環境ができますよね。だから、やはりそういう格差が、今これだけ必要とされているんだったら、福祉の面から考えて、そういう格差があったらいけないんじゃないかなというふうに私は思っています、再度上げさせていただきましたが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

指導員の配置数につきましては、各児童クラブについて1カ月の継続的利用者が1日おおむね50人以上ぐらいの児童クラブには指導員を3名、それ以下のクラブには2名配置を原則としながら、現場の状況を見ながら運営をしているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やはり、その施設ですね、まず一番に施設を早急に整えないといけないということと、あと、指導員の方の雇用ですね、それを3年で打ち切りだったことを、やはり前回申しましたように、1年1年更新をして、よければ続けていただくという、やっぱり専門職みたいな方がここには必要だという傾向になっております、全国的にですね。やはり子どもたちのケアとか、お母さんたちのケアとか、そういうところまで、この場所が必要になってきているという意見が出ておりますので、ここを今から充実させていかなければならないんじゃないかというふうに思っております。

あと、全国のセンターの利用料金がちょっと出ていたので、お伝えしたいんですが、やはりここら辺の利用料金でよその学童がうまくいっているとかいう話も聞いていますが、大体5,000円未満で運営されているところは41.8%です。5,000円から1万円が46.4%、1万円から1万5,000円が10.1%という形で、保育料も、やはり武雄市は恵まれているんですよね、2,000円でということ。だから、そういうところの精査で、やはり急増しているのかもしれないし、あと、市長がよく所得を上げないといかんですねというふうに言われますが、所得に関係なく、共働きをするという形がこの社会にあって、もう2人働いたら学童が要ると

いう形になっているので、これはきちんとした用意をしなければいけないというのが今の社会じゃないかなというふうに思いますが、そういうところを含めて御意見をいただきたいと思えます。

あと、ほかの市町村では、武雄市は減免がありますが、減免があるところは50.7%で、減免なしが48%で、やはり学童の中でもいろんな整理をされていないところで、いろんな違いが出てきていると思えますので、安心して預けられる場所にするために、あと、子どもたちにとっていい居場所になるように、ここのところを精査していかなければならないと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

朝日の児童クラブの例を出されましたけれども、これはちょっとやっぱりね、いろんな課題があるんですよ。どこから見ればいいのか。だから、子どもたちを見ればいいのか、保護者の方々を見ればいいのか、地域のほうを見ればいいのか、あるいは学校側のサポートのほうを見ればいいのかという、すごくこれは難しく、これはさきに吉川議員がいろんな具体的な提言をされたときに、質問が1つのきっかけとなって、賛否両論あるんですよ。やっぱり、延長すべきだって吉川議員がおっしゃって、僕もそうだなと思って、そうだというふうに答えたんですけど、その後、テレビをごらんになられた方で、いや、それはやっぱり子どもを育てるのは親の役割でしょうっていう方が結構いらしたんですよ。指導員の方も、基本的にはそっこのほうの考え方が多かったんですよ。

ですので、施設整備もさることながら、やっぱりそれは全体として考える必要があるというふうに思っていますので、こういうことで、こうやって御質問して、我々が、こども部長が答え、私が答えていますけど、よく自分たちのこととして、保護者の皆さん、市民の皆さんたちによく考えてほしい。そのニーズに応じて、私は訴えられてはいますけどね、財源をきちんと確保して、その上でしっかり進めていきたいなと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

市長の答弁のように、いろんな意見があって、私も自分の子育てとかを通して、やはり最終的には親ということはおわっているんですが、やはりこういう社会状況の中、こういう支援もしっかりしてあげなければいけないんじゃないかという部分もあります。

あと、所得制限とかいろいろないので、この学童利用のところですね。だから、やはり利用料というところで変化があると、またきちんと精査ができるのではないかという意見もいただいております。

また、ファミリーサポートを切りかえてするというやり方が、うまく利用しやすいものにならなければ、6時から7時まで利用したいという方がいらっしゃれば、上乗せの1,000円とか2,000円とか、そういう形で継続をするとか、時間延長するという形が出れば、またそれもいい形じゃないかなというふうに思いますので、ここは、本当、子どもたちの居場所として、元気にただいまと帰ってこれて、指導員の顔色とか親御さんの顔色を見なくても、ここが生き生きと楽しい場所で過ごせるような施設にならないといけないと思っておりますので、いま一度、ここは早急に施設、また指導員の雇用体制などを考えていかないといけないというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

ファミリーサポートの利用状況は、前回提案してからは、どのような状況でしょうか。

**○議長（牟田勝浩君）**

馬渡こども部長

**○馬渡こども部長〔登壇〕**

ファミリーサポートの件でございますが、放課後児童クラブに限らず、ファミリーサポート事業を利用しやすくするために、今年の4月から利用料の助成措置を行いました。

放課後児童クラブの送迎におきましては、4月、5月の2カ月間で継続的に利用されている方が5人で、合計57回を利用されております。この方たちはほぼ定期的に利用されている状況です。そのほか、単発で1回、2回と利用されている方は、ほかにもございます。

以上です。

**○議長（牟田勝浩君）**

4番山口裕子議員

**○4番（山口裕子君）〔登壇〕**

いろいろ検討をされて、どういう形がいいかを十分見ていってほしいなと思います。

ファミリーサポートは、サポート者の自宅でないと見ることができないんですね。だから、そういうところから、ちょっと利用しにくいとかいう話も出ておりますので、6時から7時まで延長をしたら、その延長分だけ利用料が要るとか、そういうやり方もあるかもしれないので、いろんな検討の仕方をしていただきたいなというふうに思います。

それでは、次に行かせていただきます。

3番目に、新工業団地についてお尋ねします。

これは、本日の1番目に山口等議員から詳しく出ておりましたので、一部分は割愛させていただきます。

あと、私がちょっと気にしたのは、平成23年の4月30日に「新産業集積型工業団地、投資冷え、売り込み苦戦」というような新聞が佐賀新聞に載りましたので、このようなマイナスの流れが出たのは、ちょっと私も嫌だなというふうに思ったんですが、ぜひとも武雄市は、こういうイメージをつくらずに、やっぱりインターに近いという売りとか、今回議会にも上

げられておりますが、奨励措置などをしっかりと打ち出して、早期に売れるような体制をとってほしいなと思いますが、市長、どうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

お答えします。

御指摘のように、新聞紙上等では、新産業集積エリアへの立地が非常に厳しいのではないかと御指摘がございます。そういった御指摘がございますが、2番議員のところで御説明しましたように、今回、新しい制度拡充をいたしまして、より早く分譲ができますように、その制度の整備とPRをしていきたいというふうに考えておりますし、また、おっしゃるとおり、武雄北方インター工業団地という名称も非常に利便性がいいよということも含めてつけております。そういったことを含めて、積極的に取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ぜひともお願いしたいと思います。

あと、先ほど、障がい者団体の自動販売機の件もありましたが、やはり大変厳しい中、作業とか仕事が減っております。急激にリーマンショック以来、仕事がなくなって、工賃が減っているとか、そういう話も聞いております。

今回、私に相談ありましたのは、また新たに作業所などを立ち上げたいという方が、武雄市に工業団地ができて、誘致されるならば、その仕事ですね、部品の組み立てとか、下請の仕事というのを優先的に障がい者団体にぜひとも回していただけないだろうかというお願い事がありましたので、その件に関して市長、お聞きいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、工業団地の誘致にかかわらず、やはり障がいのお持ちの方が生き生きに、伸び伸びに仕事をできる環境を整えるというのは、それは行政の役割だと思っております。

小池議員の近くに、つくしのさとがありますけど、本当に一生懸命されていますし、そして、私が市長に就任させていただくときに、日当たりの悪いところとか、水はけの悪いところでされたのを、山内の支所の協力をいただいて、その1階でしていただいているとか、あるいは、これからいろんな仕事、特にICTでスキヤンの仕事がやっぱりふえるんですよ。ですので、そういった、ちょっと言葉が適切かどうかわからないですけども、シンプルな

事業についてはなるべく障がいをお持ちの方々のお力をかりて、そして、やっぱり武雄市は本当にフラットな社会だなということをアピールしていきたいというふうに思っております。これは、私ども武雄市役所も事業所の一つでありますので、採用についてもそうです。さまざま各企業さんに働きかけるのもそうですけれども、これについては一生懸命、今まで以上にやっていきたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ぜひともよろしく願います。早期の誘致実現に力を入れて、たくさんの雇用ができて、いい工業団地になっていくことを願っております。

それでは、最後になります。道路行政についてお尋ねいたします。

毎回上げさせていただいております梅野有田線についてお尋ねいたします。

梅野有田線だけでなく、議会の中でもたびたび出ておりますが、やはり今度の被災地の復旧・復興に係る費用が莫大な金額でありますので、これからの道路行政はますます厳しくなるんじゃないだろうかということ懸念されて、市民の方がお尋ねになります。

うちの梅野有田線ですね、平成22年9月の議会で市長が、本当、ちょっとだけ兆しの見えたような答弁だったんですね、それが。ここの部分は、市の財政負担をふやして、それがオーケーであれば、県に私から知事に言いますよ、知事はきっとわかってくれると思いますという一言が、とても私たちには前向きな、ひょっとしたら本当数年、ともいわずに歩道ができるんじゃないかというような希望が見えたわけですが、毎年、土木事務所のほうに要望に区長さんとか議員さんですね、私はことは行けなかったんですが、要望に行っておりますが、なかなか厳しいという御意見です。

私は、安心・安全というところから、何とかしないといけないと思うんですが、市長、そういうところの見解をもう一度聞かせていただきたいと思うんですが。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに、私が答弁したときは、例えば、知事さんと一緒に、梅野有田線ですよ、これ実は一緒に行ったこともあるんですよ。そのときに、これはぜひせんばいかんねというのは、知事の言葉を引いて私も申し上げたんですけど、やはりそのやっぱり、3月11日ですよ。3月11日の震災で、私のところにも国交省の本省からも、ちょっとこれは事業の進捗についてはしばらく、やっぱり1年、2年、ちょっと待つてほしいということも出てくるかもしれないといったことがあって、その後に、国交省からも、5%の留保を行ってほしいということ言っていたら、増減で言うと16%も下がっているんですね、もう。16%ですよ。ですの

で、これ、なかなかですね、やっぱりさっきおっしゃったように、曇りから日が差してきたっておっしゃいましたね。だけど、また曇ってきました。

ですので、ただ、それは、震災復興に、やっぱり同じ日本国民として重点的にしなきゃいけないということもありますものですから、なかなかこれについては、もちろん要望はちゃんとしてます。しますけれども、やはりそちらのほうに国全体がかじ取りというのが、どうしても東北に行っているということについては、ぜひ武雄市民の皆さんたちも御理解をしていただければありがたいのかなというふうに思います。

ただ、繰り返し言いますけれども、そうは言っても、私は武雄市長ですので、必要なものは必要であるということは議会の皆さんたちと一緒に声を届けていきたいと、指導でできる部分については、きちんとやっていきたいと、このように思っております。

**○議長（牟田勝浩君）**

4番山口裕子議員

**○4番（山口裕子君）〔登壇〕**

やはり、被災地のことを思うと、そこが復旧・復興には一番なので、これ以上のことは言えないと思うんですが、やはり交通弱者を守るという点から、歩行者、自転車、お年寄りさん、子どもさん、このやはり歩道の確保を何とか対策を練らねばならないというふうに私は思っております。

前は、大型のダンプが一日じゅう行き交うんですが、通学時間と下校時間といいますか、そういうときの規制とか、やはり安心・安全の確保を何らかの方法で前向きにやっていかないといけないというふうに思いますので、国には頼れないですが、武雄市としてできることがあるならば、どういうことでしょうか。

**○議長（牟田勝浩君）**

石橋まちづくり部長

**○石橋まちづくり部長〔登壇〕**

御期待の道路の整備ですけど、なかなか難しいものがございます。これにつきましては、要望しても進んでいないというのは、さっき市長答弁されましたように、じゃあ、どうするかということなんですね。それで、子どもたちを守るということでございますので、朝夕の通勤時に一定車両を規制するとか、そういう方法が考えられるかなと思います。

これにつきましては、しかし、道路管理者、あるいは公安委員会と協議が必要でございしますので、関係機関にはちょっと働きかけていきたいというふうに考えております。

**○議長（牟田勝浩君）**

4番山口裕子議員

**○4番（山口裕子君）〔登壇〕**

うちの今山というか、梅野有田線を時間帯に区切ると、今度はどこを回るかということ、今

度は鳥海のほう、そこもやはり急がなければならないところではあるんですね。本当にそこも民家とぎりぎりのところを大型が通っているわけですね。もう対策としては、そういう形で、やはり何とかして歩道の確保をしないと、もう我慢してくださいというか、事故があったらということ常々言っておりますが、何らかの方法で安心・安全の確保を今後とも武雄市は考えていってほしいなというふうに思っております。

こういう状態になって20年間要望しておりますが、ちょっと光が見えたところでほっとしていたんですが、やはりいろいろな方向から見ても、努力も自分たちもしますし、武雄市のほうも道路行政について今後とも力を入れていってほしいなというふうに思っております。

これをもちまして山口裕子の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。